

事例28 単元「消費者として経済を考えよう」

思考力・判断力・表現力を育むための言語活動の工夫

社会 第3学年

小松市立安宅中学校

1 事例の概要

本校では平成18年度から「確かな学力」の向上を目指した研究を進めてきた。今年度は、「考えを伝え合い、高め合う生徒の育成」を研究主題とし、思考力・判断力・表現力を育むため、各教科において言語活動を充実させることとした。

社会科においては、これまでも適切な資料を収集し活用すること、多面的・多角的に考え表現することを大切にしてきた。また、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する活動を充実させることにも取り組んできた。

本事例は、ねらいの達成のために言語活動を工夫し、多面的な思考・判断及び表現する力の育成を試みた実践である。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・個人の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとする。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- ・個人の経済活動のあり方についてさまざまな立場から公正に判断することができる。
【社会的な思考・判断】
- ・個人の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用することができる。また、追究し考察した過程や結果をまとめ、他の人にわかりやすく説明することができる。
【資料活用の技能・表現】
- ・経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方の知識を身につける。
【社会的事象についての知識・理解】

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 指導法の工夫（言語活動を充実させるために）

- ・活用力をはぐくむための学習活動例をつくり、授業設計の土台とした。そして、各単元でどのような言語活動を行うのかをシラバスに位置づけ、生徒にも年間の見通しを持たせた。
- ・学習活動の場面を意識づけるカード（考える・決める・伝える・高め合う）を利用し、授業の見通しを持たせるとともに場面を意識させた。
- ・根拠を明確にした発表や表現活動を多く取り入れた。
- ・板書以外の記録やメモをとるなど、学習のあしあとが見えるノートづくりを心がけさせた。
- ・少人数のグループによる話し合いやディベートなど、学習形態を工夫した。

② 問題解決的学習の工夫

- ・資料を読み取り表現する力、資料を関連づけて考察する力などを高められるように必然性のある課題を工夫した。
- ・実社会や実生活と関連した課題を多く扱うようにした。

③ 学力定着のための工夫

- ・始業・終業時間のけじめをつけるなど、授業に集中できるように授業規律を徹底した。
- ・小テストや復習の時間を確保した。また、ワークなどに繰り返し取り組ませた。
- ・論述問題に多く取り組ませた。

B-1 単元の指導・評価計画

B-2 指導法の工夫

3 指導の実際

★はねらいを達成するための言語活動

学習活動	指導上の留意点（☆は支援）	◆評価の観点 評価規準〔評価方法〕
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> さまざまな小売店の良さとこれからについて考えよう </div>		
③それぞれの小売店や商店街が取り組んでいることを調べ、考えたことを説明する。 ④★今後、様々な小売店はどのように変化していくか、意見交換を通して考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取れることをワークシートに簡潔まとめ、説明させる。 ・自分の考えと友達の考えを比較させる。 ・各小売店が持つ良さ、課題を踏まえて考えさせる。 ・グループで意見交換をし、必要な意見はメモをとらせる。 ・根拠を述べて発表させる。 ☆わからない生徒には、どう変わって欲しいかを考えさせるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ◆ 資料を活用して、様々な小売店の取り組みを説明している。【技能・表現】 (発表・ワークシート) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◆ 今後、様々な小売店はどのように変化していくか、多面的・多角的に考えている。【思考・判断】 (発表・ワークシート) </div>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

① 指導法の工夫

各単元に活用力をはぐくむための学習活動例を位置づけたことにより、生徒に見通しを持たせることができた。また、カードを用いて学習活動の場面を意識させることで、目的が明確化され、より効果的な活動を行うことができた。その他、根拠を明確にした発表や表現活動、ノートの工夫、学習形態の工夫などにより、論理的な思考のできる生徒が増えてきた。

② 問題解決的な学習の工夫

資料を正確に読み取り記述したり、その資料から何がわかるのかを説明したりする活動を数多く行うことで、資料を活用し表現する力が向上してきている。また、実社会や実生活での体験を通して考えられる課題は、思考への意欲につながった。

③ 学力定着のための工夫

授業規律を徹底させることで、授業への集中力が高まった。また、既習事項を繰り返し確認することで、基礎基本の定着を図ることができた。

(2) 課題

自主的・意欲的な学習活動を行うために、言語活動の意義を生徒に一層自覚させていかなければならない。また、教師は、思考力・判断力・表現力をつけるために、言語活動を単元のどの場面で設定するか、さらに工夫しなければならない。

特に、社会科においては地図や統計などの資料を使う場面が多い。資料を活用して考えを表現する力がさらに向上するように、資料の精選や提示方法の工夫などを図っていく必要がある。また、ねらいを達成するためにはどのような課題を設定したらよいか、どのような言語活動が効果的であるかを常に考えていかなければならない。